

神奈川県における逐次刊行物総合目録の変遷

佐藤 栞

はじめに

県内公共図書館の相互協力を円滑に行っていくうえで、総合目録はなくてはならない基本的なツールである。特に、雑誌などの逐次刊行物は創刊・休廃刊が多く、また各図書館において毎年のように購入雑誌の変更が行われる。そのため、逐次刊行物の総合目録には、書誌の新規作成や削除、データの訂正が頻繁に生じる。総合目録はこれらの書誌やデータの変更に基づき、たえず最新の状態に維持管理しておかなければならない。

神奈川県内では、総合目録構築の動きは鈍かった¹⁾が、逐次刊行物に限ってみると 1964 年に最初の冊子体総合目録が神奈川県図書館協会から刊行されており、その後、収録対象等の変遷を重ねながらも現在の Web 版による「神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録」へと続いてきた。

本稿では、神奈川県内の逐次刊行物の総合目録についてこれまでの経緯と概要を紹介する。

1 公共図書館における雑誌

1.1 公共図書館における雑誌の役割

総合目録について述べる前にまず、公共図書館における雑誌の役割を考えてみたい。

メディアの発達に伴い、情報はリアルタイムで把握できる時代となった。情報を掲載するメディアは、速報性、情報の質、量が重視される。雑誌の特性を考えると、様々なメディアの中で、速報性が高く、情報の信頼性があり、時代を反映する歴史的価値の高いメディアだと言える²⁾。

次に、出版流通の面から考えてみる。現在の出版流通システムには、「委

託販売制度」があり、出版社や取次販売会社と書店との間で結ばれている。この制度は、書店に配本した出版物が委託期間後に売れ残った場合は、出版者に返品できる制度でこれによると雑誌の委託期間は書籍に比べると短い。つまり、雑誌の最新号が配本されるとバックナンバーは返品され、入手しにくくなる³⁾。

上記のことから、公共図書館における雑誌の役割は2つあげられる。ひとつは、新しい情報を素早く提供すること、ふたつめは、バックナンバーを保存し提供することである。雑誌は図書館サービスにおいて重要な役割を持っており、これを果たさなければならない。

1.2 神奈川県における雑誌の保存と相互協力の歴史

図書館の役割である、雑誌のバックナンバーを揃えることは重要ではあるが、保存スペース、書庫が確保できない現状がある。定期的に刊行される雑誌は、かなりの保存スペースを必要とする。神奈川県立図書館（以下「当館」という。）では基本的に雑誌も永年保存としているが、市町村の図書館においては、書籍を保存するために除籍・廃棄の対象となりやすいのが雑誌である。

雑誌はバックナンバーに価値が高いものが多く、保存すべきものが多い。また、出版点数も多く、利用者の要求も多様であることから、一つの図書館では全ての利用者のニーズに応えきれない。そこで検討されたのが分担共同保存である⁴⁾。

県内の市町図書館では、早くから雑誌の分担保存を行っており、湘南6市（平塚、鎌倉、藤沢、小田原、茅ヶ崎、逗子）は、「湘南6市図書館の雑誌相互保存に関する協定書(1978年12月26日)」を、県央8市1町（相模原、大和、綾瀬、座間、海老名、厚木、伊勢原、秦野、愛川）では、1980年に「県央地区公共図書館新聞・雑誌保存に関する協定書」を結んでいた⁵⁾。

また、2004年4月1日から「神奈川県内公共図書館等における雑誌の分担保存に関する申し合わせ」（以下「申し合わせ」という。）に基づき、神奈川県内の公共図書館 76 館で、相互に協力して雑誌の提供能力を高める

とともに、書庫スペースの狭隘化を緩和し、図書館サービスの充実を図ることを目的に、分担保存事業が始まった。

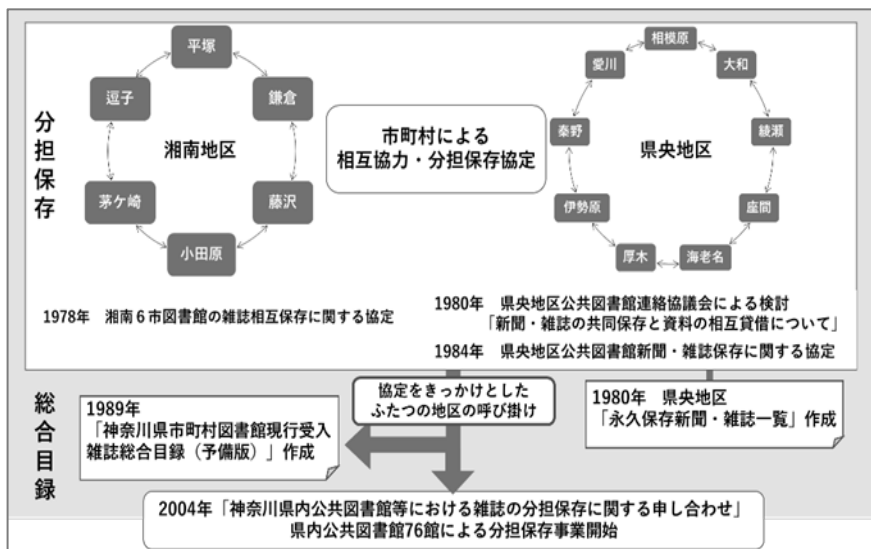


図1 神奈川県における雑誌の保存と総合目録の関係

しかし、全県的に分担保存が行われるようになったとはいえ、未だ課題は残っている。永年保存の雑誌は複数の館で重複して保存している一方、短期保存の雑誌やどこの館も保存していない雑誌が多くある。

また、各館で廃棄対象となった雑誌については、県内の指定館で永年保存とされるものは活用できるが、それ以外のものは廃棄するしかなく、有効活用する方法が今のところ見だせていない。

「県央地区公共図書館新聞・雑誌保存に関する協定書」の先がけとなったのが、1974年4月の県央地区（相模原・秦野・厚木・大和・海老名・座間）の公共図書館が図書館機能の充実を目的に相互の連絡・研究に乗り出した「県央地区公共図書館連絡協議会」の発足である。この協議会内の「共同研究委員会」内でテーマとして取り上げられた「新聞・雑誌の共同保存と資料の相互貸借について」の研究成果が協定書の骨子となった⁶⁾。これに基づき、1980年に新聞雑誌の共同保存と相互貸借が始まった。

さらに県央では、新聞・雑誌の一覧を毎年更新して作成しており、湘南・県央という2つの地区の呼びかけにより、『神奈川県市町村図書館現行受入雑誌総合目録（予備版）』の編集発行がされることになったと言われている⁷⁾。このリストをみれば、いつから、どの館でどんな新聞や雑誌が保存されているのかが一目でわかり、相互貸借に役立つのである。

これを利用し、自館にない資料を所蔵している館から協力車等を利用して取り寄せる事ができ、利用者に提供できる。当館では、雑誌は貸出していないが、市町村立図書館からは雑誌も相互貸借が行われている。

このように相互協力が円滑に行われるためには、雑誌の総合目録はなくてはならないものである。

2 神奈川県における逐次刊行物総合目録の経緯

神奈川県では、前述の予備版が発行される以前に既に逐次刊行物の総合目録が刊行されていた。編纂の経過をあげると次のようになる。

2.1 県図書館協会等による編さん

①『神奈川県公共図書館定期刊行物総合目録第一編雑誌・新聞篇』（神奈川県教育庁社会教育課編 1958年）

本県では、1958年に『神奈川県公共図書館定期刊行物総合目録第一編雑誌・新聞篇』を刊行した。神奈川県下の公共図書館19館が所蔵する雑誌・新聞（一部年報類含む）を収録したものである。これまでに主要図書目録は刊行されていたが、定期刊行物の総合目録は刊行されていなかった⁸⁾。

②『神奈川県図書館逐次刊行物総合目録 昭和36年12月31日現在』（神奈川県図書館協会逐次刊行物総合目録編集委員会編 1964年）

公共図書館逐次刊行物総合目録を作成するという全国的な企画の一環として関東地区の目録を作成することとなり、これを契機に、神奈川県図書館協会では、県として独自の目録を同時に編集作成しようと試み⁹⁾、1964年に『神奈川県図書館逐次刊行物総合目録』が刊行された。この目録の特

色は、定期刊行物に逐次刊行物を加え、大学図書館まで収録範囲を拡大し、大学図書館が所蔵する外国関係の雑誌についても収録したことにある。

③『神奈川県図書館逐次刊行物総合目録 改訂版 昭和46年12月31日現在』（神奈川県図書館協会逐次刊行物総合目録編集委員会編 1974年）

前回の目録(1964年発行)から10年が経過し、逐次刊行物の量的増加や、復刻版の刊行等により、大幅な改定が必要になっていたことから『神奈川県図書館逐次刊行物総合目録 改訂版』が刊行された。

収録点数は、県内の公共・大学図書館が所蔵する和・漢の逐次刊行物のうち、永年保存として報告されたもの約12,000タイトルである。また、その範囲は①一般②学会その他③公共機関④官公署の逐次刊行物であり、形態別の配列であった。その形式や体裁は前回の目録に準拠しているが、前回と異なる点は、大学図書館が、欧文のみでなく和文にも参加したこと、書名索引を付したこと、内容面では、名簿類と目録類をその概念に適さないということで落としたことがあげられる¹⁰⁾。

④『神奈川県内市町立図書館等雑誌一覧 昭和58年度版』（コピー複製版）（神奈川県立図書館協力車担当編 1984）

また、「神奈川県図書館逐次刊行物総合目録」の流れとは別に、当館の協力車担当による事務参考資料として『神奈川県内市町立図書館等雑誌一覧』¹¹⁾が作られている。

神奈川県内の市町村立図書館等の継続購入している雑誌と、永年保存している廃刊・休刊の雑誌を収録したものであり、現在の『神奈川県公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録』に近いものである。

⑤『神奈川県図書館逐次刊行物総合目録 1985年度版 1982年4月30日現在』（神奈川県図書館協会書誌委員会編 1986年）

③の刊行後、神奈川県図書館協会による総合目録の発行は途絶えていたが、組織改編を機に続編の発行がなされた。収録点数は、神奈川県内の公

共図書館及び類似施設で永年保存としている約 15,000 タイトルである。また、対象とした逐次刊行物は、主に新聞、官・公報類、雑誌、紀要、研究報告類、年鑑・年報類、白書、統計類である。

この目録の特徴としては、次の3点が挙げられる¹²⁾。前2回の目録に収録されていた大学図書館が所蔵するすべての資料を除いたこと。欧文資料を除き、また普通巻末に付される索引を省いたこと。その結果として、検索の便をはかるため、形態別の配列をやめ、すべてのタイトルを音順に配列したことである。

表1 神奈川県における図書館逐次刊行物総合目録の経緯

	刊行年	内容
①	1958	『神奈川県公共図書館定期刊行物総合目録第一編雑誌・新聞篇』（神奈川県教育庁社会教育課編 1958年）
②	1964	『神奈川県図書館逐次刊行物総合目録』（神奈川県図書館協会逐次刊行物総合目録編集委員会編 1964年）
③	1974	『神奈川県図書館逐次刊行物総合目録 改訂版 昭和46年12月31日現在』（神奈川県図書館協会逐次刊行物総合目録編集委員会編 1974）
④	1984	『神奈川県内市町立図書館等雑誌一覧 昭和58年度』（コピー複製版）（神奈川県立図書館協力車担当編 1984）
⑤	1986	『神奈川県図書館逐次刊行物総合目録 1985年版 1982年4月30日現在』（神奈川県図書館協会誌書委員会編 1986）

2.2 神奈川県公共図書館逐次刊行物実務担当代表者会議

1989年4月に開催された逐次刊行物実務担当者会議（以下、「担当者会議」という。）において、雑誌の出版点数の増加や、かねてより言われていた書庫スペースの狭隘化等の問題から、相互協力の必要性が唱えられた。

これを受けて公共図書館における雑誌の相互協力を検討する目的で標記会議が発足した¹³⁾。標記会議は2年にわたり検討し、下記の検討結果を発表した。

『神奈川県内公共図書館における雑誌の相互協力のあり方について 1』
(1990年3月)

『神奈川県内公共図書館における雑誌の相互協力のあり方について 2』
(1991年2月)

この報告書の中で、創刊・休廃刊の多い逐次刊行物の総合目録が機能するためには、少なくとも年1回は作成する必要があるとした¹⁴⁾。標記会議は総合目録の編纂にも着手し、基礎資料として作られたのが『神奈川県内市町図書館現行受入総合目録(予備版)』(以下「予備版」という。)である。

また目録の維持管理のために、「神奈川県内市町図書館現行受入総合目録維持管理マニュアル」¹⁵⁾が検討された。このマニュアルに従って、事務局を当館の資料部逐次刊行物課内に置き、1991年に『神奈川県市町図書館現行受入総合目録』が発行された。

2.3 神奈川県立図書館資料部新聞雑誌課(平成5年まで逐次刊行物課)による印刷刊行

担当学会の報告に基づき、以後当館新聞雑誌課が事務局となり、隔年ごとに下記の版を刊行した。予備版(B5)版から正式版(A4)に代わり、厚さも増していった。1994年3月刊の「1994年」版では、あらたに新聞・外国語雑誌・外国語新聞のデータを加え、タイトルも『神奈川県市町図書館現行受入雑誌・新聞総合目録』となった。その後、タイトルが「神奈川県内」「市町村」と微妙に変化しながら、『神奈川県内市町村図書館現行受入雑誌・新聞総合目録2002』の冊子体最終版まで刊行された¹⁶⁾。

表2 神奈川県内市町(村)図書館現行受入雑誌総合目録の経緯

刊行年	内容
1990	神奈川県市町図書館現行受入雑誌総合目録(予備版) 平成元年10月現在』(手書き原稿コピー複製版)
1991	『神奈川県市町図書館現行受入雑誌総合目録 1991』 (コピー複製版)
1992	『神奈川県市町図書館現行受入雑誌総合目録 1992 (平成3年11月現在)』(コピー複製版)
1994	『神奈川県市町図書館現行受入雑誌・新聞総合目録 1994 (平成5年12月現在)』
1996	『神奈川県内市町図書館現行受入雑誌・新聞総合目録 1996 (平成7年11月現在)』
1998	『神奈川県内市町村図書館現行受入雑誌・新聞総合目録 1998 (1997年11月現在)』
2000	『神奈川県内市町村図書館現行受入雑誌・新聞総合目録 2000 (1999年12月現在)』
2002	『神奈川県内市町村図書館現行受入雑誌・新聞総合目録 2002 (平成13年11月末現在)』

2.4 冊子体『神奈川県内市町(村)図書館現行受入雑誌総合目録』の特徴

これまで刊行された現行受入雑誌総合目録の特徴をまとめてみる。

基本的には全ての版で、①いずれかの図書館で継続受入中の購入雑誌を収録範囲としており、②市町村図書館で受け入れている雑誌で、当館及び県立川崎図書館の両館が所蔵している場合は、両県立のデータを掲載している。県立両館のみが受入所蔵している雑誌は含まない。また、③郷土資料関係の雑誌も含まない。その他の特徴と参加館数を次のようにまとめた。

(表3)

表3 冊子体『神奈川県内市町(村)図書館現行受入雑誌総合目録』の特徴

刊行年	参加館	特徴
1990	60館	
1991	58館	はじめてマニュアルに基づいて記述する この版のみ両県立のデータを含まない
1992	63館	この版のみ外国雑誌を含まない
1994	68館	この版以降、外国雑誌・新聞を含む
1996	78館	
1998	78館	
2000	79館	
2002	81館	

3 Web版「神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録」

3.1 冊子体総合目録からWeb版総合目録公開へ

県内公共図書館における雑誌・新聞の相互利用を推進するため、当館はその基本的資料となる『神奈川県内市町(村)図書館現行受入雑誌総合目録』を1990年から隔年ごとに冊子体で発行してきた。しかし、冊子体に掲載された情報にはタイムラグが生じること、検索対象は雑誌名に限られるといった問題点があった。それらを踏まえ、OPAC公開している図書館についてはデータを検索できるようにしていった¹⁷⁾。

だが、逐次刊行物の場合、最新の情報はもちろん、バックナンバーの所蔵状況が一覧できることが重要である。Web版の公開は県内にとどまらず、情報のネットワーク化の観点からも望まれるところであり、当館の電算システム導入にあたっては当初から冊子体の逐次刊行物総合目録のデータベース化が計画に盛り込まれていた¹⁸⁾。

1990年度に「神奈川県図書館情報ネットワーク・システム(以下「KL-NET」という。)」の第1次システムが稼働を開始したが¹⁹⁾、実際には、第1次システムでは実現せず、第2次システム稼働中の2003年度からWeb(HTML)版として一般公開した。これは、事務局である当館のサーバーにHTMLファ

イルを格納し、更新はこのファイルを修正して行うという形で作成されたものである²⁰⁾。したがって、参加館がFAX等で「訂正票」にて報告する所蔵状況の変更を事務局が一括して更新する方法を採用していたため、データ更新のタイムラグの問題は依然残された。また、検索機能も持っていなかった。

その後、CMS²¹⁾の普及する中で、wikiにより作成された試行版を経て、2009年度から国立情報学研究所により開発されたNet Commons版の検討を行い、2010年度にNetCommons版「Web版神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録」を一般公開した。

その結果、事務局は当館資料部情報整備課内に置かれてはいるが、所蔵状況の更新や新規書誌の書誌登録を総合目録の参加各館の担当者が行えるようになり、データ更新のタイムラグが解消された。また、データベースでコンテンツを管理するシステムであるため、検索も可能となり利便性が向上した。

3.2 Web版「神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録」の概要

①概要

これまで1990年から隔年ごとに『神奈川県(内)市町(村)図書館現行受入総合目録』を発行してきた。この目録は、冊子体最終版の『神奈川県内市町村図書館現行受入雑誌・新聞総合目録 2002』(平成14年3月31日発行)を元にして、当館及び県立川崎図書館が所蔵しているデータを加えて収録している。

収録範囲は、神奈川内の公共図書館の所蔵している雑誌・新聞であり、雑誌については、原則として、購入雑誌でかつ現在受入中のものを収録している。寄贈雑誌および現在は受入れていないものは、基本的に含まれない(一部休・廃刊のもの含む)。また、新聞については、所蔵目録となっており、寄贈のもの、現在は受入れていないものも含んでいる。また、神奈川資料として収集・整理している雑誌は対象外である。

記載事項は、「Web版神奈川県内市町村図書館現行受入雑誌総合目録維持

管理マニュアル」に基づき、書誌事項、所蔵事項、注記事項が記載されている。

②検索

通常の冊子体の総合目録では雑誌名から雑誌を探していく。また、Web 版に移行してからも HTML 版では、検索機能を備えておらず、一覧から探していく方法であった。

Net Commons 版においては、雑誌名だけでなく、出版社、所蔵館名の一部でも検索することが可能となった。従来のように一覧から雑誌を探すこともできる。

③更新方法

冊子体においては、市町村からの訂正データの提出を受け、事務局がデータの訂正を行って、原稿作成を行っていた。また、すでに述べたように、HTML 版でも、同じ様に FAX などで報告される所蔵更新情報を事務局が総合目録へ反映させていた。

現在の Net Commons 版では、所蔵状況の更新や新規書誌の登録を参加館の担当者が行っており、各館が行ったデータ更新の情報が事務局に送信され、事務局が更新情報を承認することで、Web 上の目録に反映されるようになっていく。このため、情報のタイムラグはほぼ解消されたといえる。

3.3 Web 版「神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録」の運用状況²²⁾

2018 年度末時点の総合目録の収録タイトル数は、日本語雑誌 2,352 タイトル、外国語雑誌 199 タイトル、日本語新聞 276 タイトル、外国語新聞 54 タイトルの計 2881 タイトルである。(表 4)

Net commons 版移行後の更新数は、年間 700 件程度で推移していたが、近年の更新数は減少している。2017 年度は分担保存雑誌の見直しを行った影響で、更新数が増えたと考えられる。(表 5)

表4 Web版総合目録のタイトル数の推移

年度	日本語 雑誌	外国語 雑誌	日本語 新聞	外国語 新聞	計(点)
2004	—	—	—	—	3,035
2005	—	—	—	—	2,993
2006	2,271	227	293	73	2,864
2007	2,310	227	291	72	2,900
2008	2,291	221	290	66	2,868
2009	—	—	—	—	2,869
2010	2,289	276	196	59	2,820
2011	2,240	277	203	59	2,779
2012	2,278	202	278	62	2,820
2013	2,291	197	278	58	2,824
2014	2,245	197	274	54	2,770
2015	2,266	197	274	54	2,791
2016	2,262	196	274	52	2,784
2017	2,337	196	276	54	2,863
2018	2,352	199	276	54	2,881

表5 Web版総合目録の更新数の推移

更新数					
年度	日本語 雑誌	外国語 雑誌	日本語 新聞	外国語 新聞	計(件)
2002	—	—	—	—	3,137
2003	505	15	22	3	545
2004	450	10	22	3	485
2005	1,017	15	24	6	1,062
2006	618	—	38	—	656
2007	912	—	50	—	962
2008	859	—	78	—	937
2009	1,459	—	96	—	1,555
2010	941	70	32	15	1,058
2011	621	22	70	24	737
2012	628	10	19	13	670
2013	603	63	41	30	737
2014	696	16	19	2	733
2015	724	35	10	3	772
2016	437	15	21	7	480
2017	736	22	48	10	816
2018	361	9	3	2	375

Web版に移行してからの総合目録のアクセス数を見ると、Web版へ移行した2002年度においては、一般公開しておらず、市町村図書館にのみ公開していたため、アクセス数が少なくなっている。Net Commons版へ移行した2010年度以降は、多少の揺れはあるものの、毎年4万件程度のアクセスがあり、定期的にご利用されていることがわかる。(図2)。

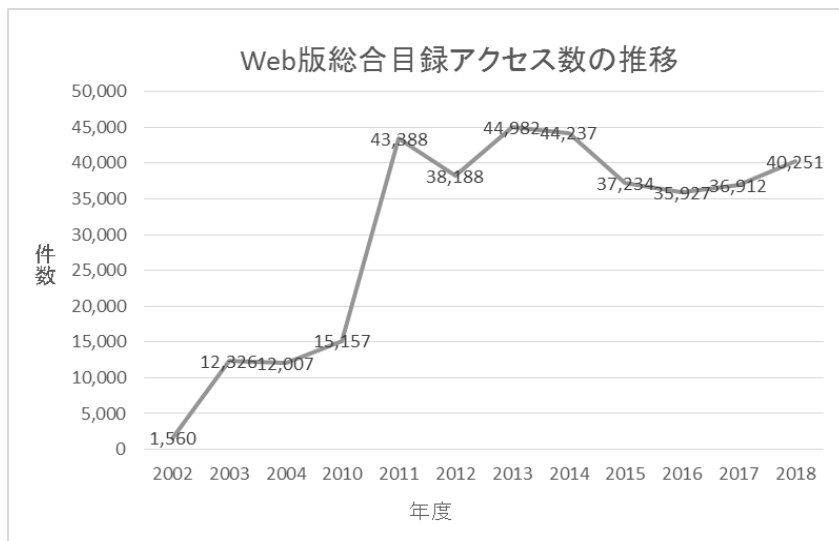


図2 Web版総合目録のアクセス数推移

4 「神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録」のこれから

現在の総合目録の元となる冊子体の刊行から約30年、Web版に移行してからも、「神奈川県内公共図書館購入継続雑誌・新聞総合目録」は安定して利用されてきた。

逐次刊行物の総合目録の一番の利点は、どの館でどんな新聞や雑誌がいつ頃から保存されているか、一目でわかることである。他館の所蔵状況が把握できれば、相互貸借だけでなく、自館の蔵書構築にも役立つ。

一方で、参加各館の担当者がデータ更新をしており、各図書館の負担となることも考えられる。また、マニュアルは整備されているものの、データの整合性を保つことが難しい。事務局が定期的にはチェックを行っている

ものの、実際にデータが重複しているものや、改題等で書誌の変更を行う際の誤りが多々見受けられる。

また、各図書館でどの資料を逐次刊行物として扱うかの基準に差異があり、検索しても年鑑などは、所蔵館がない、もしくは少なくなってしまうことがある²³⁾。

今後は、書誌データを整理し、整合性を保っていくことがひとつの課題として考えられる。ほかにも、現在の収録範囲は、購入雑誌でかつ現在受入中の雑誌となっているが、雑誌スポンサー制度によって受入している雑誌や一時的に購入中止した雑誌の取り扱いが問題となっている。将来的には、寄贈や郷土資料等の「所蔵雑誌」まで範囲を広げられれば、より良い目録となるのではないだろうか。

おわりに

ここまで、神奈川県の逐次刊行物の総合目録の変遷を述べてきた。逐次刊行物の総合目録は、図書館サービスにおいて重要なものであり、古くから図書館間の相互協力に役立ってきた。現在の神奈川県では、協力車と宅配便の併用により、県内 31 市町村との相互貸借が行われている。また、KL-NET を利用して、相互貸借管理システムを運営し、県内公共図書館ネットワークの中核施設としての事業を推進している²⁴⁾。

前述したように 2004 年からは県内公共図書館 76 館により、「申し合わせ」に基づき分担保存が行われてきた。県内の公共図書館等が保有する雑誌のうち主要なものを分担して保存することで、重複して所蔵する資料の減少を促し書庫スペースの狭隘化の軽減を図っている。また、新たな雑誌の受入を促進し、多様な雑誌の保有を目指して、豊富な情報提供サービスの基盤づくりを進めている。

現在の保存タイトル数は、市町村図書館で永年保存する雑誌 118 タイトル、当館が市町村図書館から引き継いで永年保存する雑誌 42 タイトルとなっている。

これらの分担保存対象タイトルの見直しの他、所蔵館の少なくなった雑

誌の扱いや新規受入する雑誌の選定等にも逐次刊行物の総合目録は役立っている。

一方で、データの整合性や収録範囲についての課題が残されている。また、冊子体から、Web 版へとその時々で利用可能な技術を用いて現在の形となったわけだが、これらは、当時の様々な問題に対応すべく試行錯誤を重ねて当館の職員が構築したものである。そのため、システムの構築やメンテナンスに係る知識は職員個人に依存しており²⁵⁾、長期的な運用については不安が残る。

今後も神奈川県内の図書館間での相互協力やさらなるサービス充実に向けて、総合目録の維持管理やシステム構築について議論を重ねていく必要があるだろう。

注、引用・参考文献

- 1) 森あかね, 森谷芳浩. 図書館ネットワークを支える KL-NET の変遷. 神奈川県立図書館紀要. 2016, no. 12, p. 25-44.
- 2) 馬場俊明. “印刷資料”. 図書館情報資源概論. 新訂版, 日本図書館協会, 2018, p. 38, (J L A 図書館情報学テキストシリーズ, 3-8) .
- 3) 大久保康子. 公共図書館における雑誌-神奈川県の場合-. 現代の図書館. 1993, 31(4), p. 247-254.
- 4) 前掲 3) p. 248.
- 5) 萩原富夫. 神奈川県内における図書館相互協力の現状と展望. 大学図書館研究. 1995, no. 46, p. 13-19.
- 6) 杉山武彦. “新聞・雑誌協働保存のあゆみ”. 県央の図書館 20 年の歩み. 県央地区公共図書館連絡協議会, 1995, p. 22.
- 7) “県内ネットワークの現状”. 神奈川県内のネットワークの現状と近い将来可能なこと. 神奈川県図書館協会ネットワーク研究委員会, 1993, p. 14.
- 8) 神奈川県教育庁社会教育課. 神奈川県公共図書館定期刊行物総合目録第一編雑誌・新聞篇. 神奈川県教育庁指導部社会教育課, 1958, p. 72.
- 9) 神奈川県図書館協会逐次刊行物総合目録編集委員会. 神奈川県図書館逐次刊行

- 物総合目録昭和 36 年 12 月 31 日現在. 神奈川県立図書館, 1964, p. 231.
- 10) 神奈川県立図書館協会逐次刊行物総合目録編集委員会. 神奈川県立図書館逐次刊行物目録 改訂版 昭和 46 年 12 月 31 日現在. 神奈川県立図書館, 1974, 序.
 - 11) 神奈川県立図書館協力車担当. 神奈川県内市町立図書館等雑誌一覧 昭和 58 年度版. 神奈川県立図書館, 1984.
 - 12) 神奈川県立図書館協会書誌委員会. 神奈川県立図書館逐次刊行物目録 1985 年版. 神奈川県立図書館, 1986, p. 519-520.
 - 13) 神奈川県立図書館. “リサーチライブラリーへの指向とネットワークの進展期”. かながわ県立図書館 50 年の歩み. 神奈川県立図書館, 2004, p. 74-75.
 - 14) (内部資料) “総合目録”. 神奈川県内の公共図書館における雑誌の相互協力のあり方について. 神奈川県公共図書館逐次刊行物実務担当者会議. 1990, p. 16-17.
 - 15) (内部資料) “神奈川県内市町立図書館現行受入総合目録維持管理マニュアル”. 神奈川県内の公共図書館における雑誌の相互協力のあり方について 2. 神奈川県公共図書館逐次刊行物実務担当者会議, 1991, p. 11-19.
 - 16) 前掲 13)
 - 17) 神奈川県立図書館. “蔵書を充実させる—最近 10 年①—”. 神奈川県立図書館. 神奈川県立図書館 60 年の歩み. 神奈川県立図書館, 2014, p. 5-15.
 - 18) 神奈川県立図書館電算システム導入調査委員会. 神奈川県立図書館電算導入基本構想. 神奈川県立図書館, 1987, 132p.
 - 19) 前掲 1) p. 25.
 - 20) 前掲 1) p. 34.
 - 21) Content Management System の略。コンテンツ管理システムとも呼ばれ、テキストや画像、レイアウト情報などを一元的に保存・管理し、サイトを構築したり編集したりするソフトウェアのこと
 - 22) (内部資料) 逐次刊行物担当者会議資料. 2002-2019 年度, 18 冊
 - 23) 吉田倫子. 総合目録と相互貸借考—横浜市の現状から見えてきたこと. 現代の図書館. 2001, 39(3), p. 135.
 - 24) 神奈川県立図書館事業要覧. 神奈川県立図書館, 2018, p. 15-16.
 - 25) 前掲 1) p. 35.